



## 特産タマネギの可能性を探る

8/7 安曇野タマネギ生産振興シンポジウム

特産のタマネギを活用し、農業の経営安定化を図ろうと市農業再生協議会（板花守夫会長）主催による「安曇野タマネギ生産振興シンポジウム」が8月7日、豊科交流学習センター「きぼう」で行われました。当日は、農業関係者約100人が出席。機械化や水稲との両立など市内でのモデル事業の取り組みなどが発表されました。旧豊科町から生産振興するタマネギは、消費量も多く、消費者の国産農産物への安全志向もあり、収益性が高い転作作物として期待されています。



## 安曇野の夏を満喫

8/25 友好都市東金市「あづみの探検隊」

友好都市である千葉県東金市の「あづみの探検隊」に参加した同市の小学生36人が8月25日、宮澤市長を訪問しました。この日は、古川浩一東金市副市長も出席し、友好の証として「絆の旗」の受け渡しなどが行われました。「あづみの探検隊」は、平成7年から旧堀金村の住民の皆さんとの交流で始まり、毎年、安曇野を訪れ、自然体験やそば打ちなどを行っています。3回目の参加となる田井希乃花さん（東金市立東小6年）は「東金市と違う景色が好きです。川遊びをして楽しみたい」と話してくれました。

## 夏の夜に10周年の思いを込め

8/14 市制施行10周年記念 第9回安曇野花火

第9回安曇野花火（実行委員会主催）が8月14日、明科御宝田遊水池周辺の犀川河川敷で開催されました。本年は、過去最多の約1万3千発の色鮮やかな花火が打ち上げられ、集まった約2万5千人の観客から拍手と歓声が上がっていました。

プログラムでは、市制施行10周年を記念し「安曇野はひとつ」をテーマに旧5町村の町花や村花、5地域の風景をイメージした色鮮やかな花火や、心温まるメッセージと共に結婚や家族の誕生日を祝う「お祝い花火」などが打ち上げられました。フィナーレでは、5地域の魅力が一つになり、力強さを増した安曇野をイメージした特大スターマインが音楽に合わせて打ち上げられ、安曇野の夜空一面を彩りました。



## 幽玄の世界、情念の舞で観客を魅了

8/22 市制施行10周年記念 第25回信州安曇野新能

第25回信州安曇野新能（実行委員会主催）が8月22日、明科龍門湖公園多目的広場の特設能舞台で開催されました。

火入れ式の後、能「花月」、狂言「萩大名」、能「松風」、能「石橋」などが上演され、約800人の観客は、夕闇に浮かび上がる幽玄の世界を堪能しました。

能「松風」では、主宰の青木道喜師が在原行平に愛された女性、松風を演じ、恋慕の情に物狂いする松風の情念に満ちた舞で観客を魅了しました。

開会のあいさつで宮澤市長は「市の10周年という記念の年と、新能の25回目という節目とが重なり大変おめでたいこと。新能の幻想的な雰囲気と安曇野の自然とが調和した本公演ならではの魅力を心ゆくまで楽しんでほしい」と話しました。

また、開演前には市内の小・中学生の皆さんによる仕舞・連吟も披露されました。



## 昭和の安曇野の映像記録を保存

8/11 あづみのフィルムアーカイブはじまりの会

昭和初期から50年代頃まで市内の各家庭で撮影された8ミリフィルムなどを、当時の安曇野の生活や文化を知る資料としてデジタル化して保存するプロジェクト「あづみのフィルムアーカイブ」事業のはじまりの会が8月11日、豊科交流学習センター「きぼう」で行われました。当日は、フィルムの提供者など約20人が参加。プロジェクトの発案者で、全国各地の地域映像の保存・記録を手掛ける三好大輔さん（穂高）が取り組みを説明した後、提供されたフィルムの中から、当時の下駄スケートで遊ぶ子どもや常念岳登山の様子などが紹介されました。

この事業は、市制施行10周年記念市民提案事業として行われ、9月末まで8ミリフィルムなどを募集しています。



## 里山再生に向け市民がアイデアを提案

8/22 「さとぶろ。」ワークショップ

かつて豊かな山の恵みをもたらした、市民の生活の一部だった里山の再生について考える「さとぶろ。ワークショップ」（安曇野環境市民ネットワーク主催）が8月22日、豊科交流学習センター「きぼう」で開かれました。当日は、市内外から自然や環境に関心がある皆さん約70人が参加。「市里山再生計画」の5つのプロジェクトに沿ったテーマに分かれ、里山の資源の利用促進や環境保全など、里山再生に向けたアイデア等を出しました。この日出されたアイデアは、今後、同プロジェクトの具体的な取り組みに生かされます。